

令和3年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜あたたかな集団をつくる＞	・学期始めに全学年で学習オリエンテーションを行ったのは、共通理解ができてよかった。一方で、文房具のルールを守れていないクラスもあった。二学期もオリエンテーションを行い、きまりについて、ラミネートしたものを各クラスに掲示するようにする。 ・時期に合わせたほわほわ言葉を使うことはよいが、普段の言葉遣いが課題である。あたたかい言葉遣いのできる集団をつくるため、児童会で、ネガティブな言葉をポジティブに変える取り組みや、「ありがとう」を意識させる取り組みを企画していく。 ・あいさつの取り組みにより、玄関でのあいさつは良いが、学校の中に入ってからのあいさつが弱いので、互いのことを思っているあいさつのできる取り組みを企画していく。	・学期始めに学習オリエンテーションでルールを共通確認できたのは良かったが、内容に関しては精選していかなくてはならない。「学習にふさわしいもの」という軸で、子どもがルールを話し合っで決めることも一つの案。 ・時期に合わせたほわほわ言葉の意識づけは行事ともつながっており良かった。空白の部分に入れる言葉が難しい時期もあったため、掲示板で年間全校でほわほわ言葉をためていくようにする。 ・あいさつは、あいさつチャンピオンの取り組みは初めは良かったが、3学期もたて割りで当番を決め、全員を巻き込んだ取り組みにするなど、工夫して取り組む。
	・各学期始めに、学校の現状にあった学習オリエンテーションを行い、どのクラスも学習規律が定着し、真剣に学びに向かう集団にする。 ・ほわほわ言葉を関連づけた生活目標の達成を目指し、あたたかい言葉遣いのできる集団にする。 ・元気なあいさつが自分からできる子、相手の立場に立って考え、行動できる子を育て、笑顔あふれるあたたかな学校にする。	・さざなみ議会で各学級でがんばっていることや困っていることを共有した後、困っていることに関しては、各委員会で取り組めることはないか考えるように取り組んだ。 ・コロナ禍で制限があり、たて割り活動を行うことができなかったが、ICTを活用して、委員会の取り組みなどをビデオ放送することで、活躍の場を作ることを意識した。	・さざなみ議会で、各学級でがんばっていることや困っていることを、共有する際、それぞれの学級代表を通じての発信も大事であるが、3学期は放送で全校に向けて発信していく。 ・コロナ禍でも工夫してできる異学年交流を考えていく。全体が一斉に動くものでなくても、日割りで工夫するなど、できることを考えていく。
児童会	＜児童の主体性を高める＞	・全クラスでの重点目標の掲示ができなかった。道徳リーフへの書き込みが難しく、タイミングを逃してしまうなど、生かしきれていない。文章での表現ではなくキーワードの書き込みや帰りの会でのふり返りで使うなど効果的な使い方を見直す必要がある。 ・道徳通信によって本年度の道徳教育目標を保護者・児童に発信することができた。 ・前年度の担任が提案したゲストティチャーを交えた授業を参考に新しい生活様式に配慮しながら家庭や地域の教育力を生かした授業を予定している。	・児童アンケートでは、前期94.2%後期93.9%といずれも90%を超えているが、2学期後半になり、道徳リーフの活用場が減少した。道徳リーフだけではなく、いろいろな学校行事や活動で重点目標である「やさしい心」を児童に意識させる工夫をしていかなければならない。 ・道徳通信の発信を今まで通り継続して、3学期も学校での道徳的取り組みや児童の姿が保護者に伝えられるよう発信していく。 ・家庭や地域の教育力を活かすためのゲストティチャーを交えた授業を全学級で実施できるよう、計画を立て実行する方策を考えていく。
	・授業や学校行事など、児童が主体的に活動を計画・実施できるように支援し、児童の主体性を高める。 ・縦割り活動や児童会活動など、上学年の活躍の場をつくり、下学年があこがれる上学年にする。	・全クラスでの重点目標の掲示ができなかった。道徳リーフへの書き込みが難しく、タイミングを逃してしまうなど、生かしきれていない。文章での表現ではなくキーワードの書き込みや帰りの会でのふり返りで使うなど効果的な使い方を見直す必要がある。 ・道徳通信によって本年度の道徳教育目標を保護者・児童に発信することができた。 ・前年度の担任が提案したゲストティチャーを交えた授業を参考に新しい生活様式に配慮しながら家庭や地域の教育力を生かした授業を予定している。	・児童アンケートでは、前期94.2%後期93.9%といずれも90%を超えているが、2学期後半になり、道徳リーフの活用場が減少した。道徳リーフだけではなく、いろいろな学校行事や活動で重点目標である「やさしい心」を児童に意識させる工夫をしていかなければならない。 ・道徳通信の発信を今まで通り継続して、3学期も学校での道徳的取り組みや児童の姿が保護者に伝えられるよう発信していく。 ・家庭や地域の教育力を活かすためのゲストティチャーを交えた授業を全学級で実施できるよう、計画を立て実行する方策を考えていく。
道徳教育	＜重点目標を要とし、思いやりのあるやさしい心を育む＞	・全クラスでの重点目標の掲示ができなかった。道徳リーフへの書き込みが難しく、タイミングを逃してしまうなど、生かしきれていない。文章での表現ではなくキーワードの書き込みや帰りの会でのふり返りで使うなど効果的な使い方を見直す必要がある。 ・道徳通信によって本年度の道徳教育目標を保護者・児童に発信することができた。 ・前年度の担任が提案したゲストティチャーを交えた授業を参考に新しい生活様式に配慮しながら家庭や地域の教育力を生かした授業を予定している。	・児童アンケートでは、前期94.2%後期93.9%といずれも90%を超えているが、2学期後半になり、道徳リーフの活用場が減少した。道徳リーフだけではなく、いろいろな学校行事や活動で重点目標である「やさしい心」を児童に意識させる工夫をしていかなければならない。 ・道徳通信の発信を今まで通り継続して、3学期も学校での道徳的取り組みや児童の姿が保護者に伝えられるよう発信していく。 ・家庭や地域の教育力を活かすためのゲストティチャーを交えた授業を全学級で実施できるよう、計画を立て実行する方策を考えていく。
	・重点目標を校内や教室に掲示し、ふり返りの場を持つことで「やさしい心」への意識を高める。 ・学校での道徳的取組などを年3回、道徳通信で地域・保護者に発信する。 ・保護者や地域と連携し、家庭や地域の教育力を生かした授業実践を行う。	・全クラスでの重点目標の掲示ができなかった。道徳リーフへの書き込みが難しく、タイミングを逃してしまうなど、生かしきれていない。文章での表現ではなくキーワードの書き込みや帰りの会でのふり返りで使うなど効果的な使い方を見直す必要がある。 ・道徳通信によって本年度の道徳教育目標を保護者・児童に発信することができた。 ・前年度の担任が提案したゲストティチャーを交えた授業を参考に新しい生活様式に配慮しながら家庭や地域の教育力を生かした授業を予定している。	・児童アンケートでは、前期94.2%後期93.9%といずれも90%を超えているが、2学期後半になり、道徳リーフの活用場が減少した。道徳リーフだけではなく、いろいろな学校行事や活動で重点目標である「やさしい心」を児童に意識させる工夫をしていかなければならない。 ・道徳通信の発信を今まで通り継続して、3学期も学校での道徳的取り組みや児童の姿が保護者に伝えられるよう発信していく。 ・家庭や地域の教育力を活かすためのゲストティチャーを交えた授業を全学級で実施できるよう、計画を立て実行する方策を考えていく。
読書教育	＜読書の質の向上を図る＞	・担任の先生の声かけにより、学級文庫を読む機会が増えた。特に、2年生は1人あたり20冊程度読んでいた。今後も継続して学級文庫を読み、チェックシートに記入していく。 ・5・6分類の本（環境、農業、乗り物に関する本）を、授業の中で関連図書として使うことが増えた。3分類（社会のしくみに関する本）の本は、図書室内で紹介スペースを設けた。図書委員も行事に合わせて本の紹介をすることができた。 ・夏休みの図書館だよりの中で、各学年に合った家読におすすめの本を紹介した。今後も、お便りの中で、家読におすすめの本を紹介していく。	・全体として、チャレンジ20冊は1学期よりも冊数が増えていた。しかし、個人差が大きく開いていることや、高学年の量が少ないことなど課題が見られる。 ・入り口付近のスペースに、授業関連図書や行事に合わせた図書を置いた。その結果、手に取る機会が増え、借りる児童も多くなった。児童の目に触れる場所で積極的に紹介をしていく。 ・毎月発行される図書だよりの中で、家読におすすめの本を紹介するコーナーを設けた。23日になると、それらの本を借りる児童も多く見られた。しかし、家庭での読書の定着が難しく、今後の課題である。 ・月に1度、さわやかタイムに、担任の先生による読み聞かせを取り入れた。3学期も継続して、読み聞かせの機会を取り入れていきたい。
	・さわやかタイムが読書の日（月・水・木）は、必ず学級文庫（おすすめの本）を読み、チェックシートに記入する。 ・授業関連図書や月ごとの行事に合わせた図書を紹介します。他分類の本に多く触れる機会を設ける。 ・定期的に家庭に向けたお便りを発行し、家読を推進する。	・担任の先生の声かけにより、学級文庫を読む機会が増えた。特に、2年生は1人あたり20冊程度読んでいた。今後も継続して学級文庫を読み、チェックシートに記入していく。 ・5・6分類の本（環境、農業、乗り物に関する本）を、授業の中で関連図書として使うことが増えた。3分類（社会のしくみに関する本）の本は、図書室内で紹介スペースを設けた。図書委員も行事に合わせて本の紹介をすることができた。 ・夏休みの図書館だよりの中で、各学年に合った家読におすすめの本を紹介した。今後も、お便りの中で、家読におすすめの本を紹介していく。	・全体として、チャレンジ20冊は1学期よりも冊数が増えていた。しかし、個人差が大きく開いていることや、高学年の量が少ないことなど課題が見られる。 ・入り口付近のスペースに、授業関連図書や行事に合わせた図書を置いた。その結果、手に取る機会が増え、借りる児童も多くなった。児童の目に触れる場所で積極的に紹介をしていく。 ・毎月発行される図書だよりの中で、家読におすすめの本を紹介するコーナーを設けた。23日になると、それらの本を借りる児童も多く見られた。しかし、家庭での読書の定着が難しく、今後の課題である。 ・月に1度、さわやかタイムに、担任の先生による読み聞かせを取り入れた。3学期も継続して、読み聞かせの機会を取り入れていきたい。
人権教育	＜自分と他者を大切にしようとする心を育む＞	・行事や授業交流等のもと、異なる学年に手紙を書いて渡す活動を行い、受け取った児童がノートや台紙に貼り貯めている。さらに、個人から個人へいつでも自由に取組めるよう、児童会中心に進めていく。 ・1学期中、各学級で友達のよいところみつつけの活動を行った。2学期には、友達の成長を見つけて伝え合う活動を行う。 ・障がいのある児童を理解するための授業を昨年に引き続き行った。保護者をゲストティチャーに迎え、1年生に授業をし、新任の教職員には指導案や資料を配布した。夏季休業中には、外国ルーツの児童をテーマに職員研修を行う。さらに、外国人、障がい、LGBT等の多様性を理解する授業や自分らしさを認める授業等を実践していく。	・人権週間に合わせて、1～4年生と5・6年生に分け、人権集会を行った。1～4年生は、4年生が集会リーダーとなり、集会の意味や取り組みの説明等をビデオを使って行った。歌と読み聞かせをした。5・6年生には、読み聞かせを行い、いじめについて考えた。また、教職員が合唱し、担任が児童へメッセージを伝えた。人権集会後、各学級で友だちの成長を伝え合う「のびたね見つけ」を行った。 ・人権週間に合わせ、車いすバスケットボールの選手がオンラインで多様性についての授業を行い、全校児童が参加した。また、車いすバスケットボールの見学と交流、体験学習も行った。 ・3学期も、各学級や全校で、障害者、外国人、多様性などの理解の授業を行っていく。人権感覚を磨くための教職員の研修を今後も行っていく。
	・複数の学年で取り組む学習や行事の後に、手紙形式の振り返りを書き、異なる学年に渡したり、伝えたりする活動を行う。 ・道徳や学活、総合的な学習の時間等で、自分や友達のよいところみつつけを行ったり、ありのままの自分を受け入れたりするなど自己肯定感を高めるための活動を行う。 ・多様性（外国ルーツ、障がい、LGBT等）を理解するための職員研修を行い、職員が多様性を理解し指導できるようにしていく機会を持つなど人権教育に関するSDGsの取組を推進する。	・行事や授業交流等のもと、異なる学年に手紙を書いて渡す活動を行い、受け取った児童がノートや台紙に貼り貯めている。さらに、個人から個人へいつでも自由に取組めるよう、児童会中心に進めていく。 ・1学期中、各学級で友達のよいところみつつけの活動を行った。2学期には、友達の成長を見つけて伝え合う活動を行う。 ・障がいのある児童を理解するための授業を昨年に引き続き行った。保護者をゲストティチャーに迎え、1年生に授業をし、新任の教職員には指導案や資料を配布した。夏季休業中には、外国ルーツの児童をテーマに職員研修を行う。さらに、外国人、障がい、LGBT等の多様性を理解する授業や自分らしさを認める授業等を実践していく。	・人権週間に合わせて、1～4年生と5・6年生に分け、人権集会を行った。1～4年生は、4年生が集会リーダーとなり、集会の意味や取り組みの説明等をビデオを使って行った。歌と読み聞かせをした。5・6年生には、読み聞かせを行い、いじめについて考えた。また、教職員が合唱し、担任が児童へメッセージを伝えた。人権集会後、各学級で友だちの成長を伝え合う「のびたね見つけ」を行った。 ・人権週間に合わせ、車いすバスケットボールの選手がオンラインで多様性についての授業を行い、全校児童が参加した。また、車いすバスケットボールの見学と交流、体験学習も行った。 ・3学期も、各学級や全校で、障害者、外国人、多様性などの理解の授業を行っていく。人権感覚を磨くための教職員の研修を今後も行っていく。
保健健康教育	＜すこやかな身体を育む＞	・運動会や持久走大会で、自分の目標を設定し、その目標達成を目指し、最後まであきらめず取り組む。 ・スポチャレいしかわについては、取り組み初めに委員会の児童による動画を見せたことで、取り組み意欲につながった。取り組みながら、他校の様子を知り、より意欲に燃えているクラスも見られる。2学期は、取り組み状況を掲示し、強化週間も設けたいと考えている。 ・1学期に行った「生活チェック表」では、97%の回収率ではあったが、家庭での様子を見ることができた。特に、就寝時間の極端に遅い児童については、担任による個別指導を実施していくことを考えてくる。	・運動会では、感染症対策や熱中症対策をしながら、全校で取りくめたことは良かった。また、持久走大会は雨天中止になったが、ブロック毎の記録会をし、個々の目標達成のために取り組むことができた。 ・スポチャレいしかわでは、動画を見せ、回数などの掲示をすることで意欲に繋がった。残りわずかだが、強化週間を設けるなど、最後まで呼びかけを行っていく。コロナ禍の中や他の行事・授業内容もあり、取り組みに難しさもあったが、年間を通しての工夫を凝らしながら呼びかけることが大切だった。 ・生活習慣やメディアについては、学校保健委員会での好本先生の講話をオンデマンド配信や生活チェック表などもあり、保護者・児童アンケートから改善が少しみられた。また、メディアの時間や就寝時間の自覚化を促すきっかけにもなったが、保護者への理解・意識（児童も含め）に対してまだまだ課題が見られる。3学期の生活チェック表では、事前指導を行って実施する。
	・運動会や持久走大会で、自分の目標を設定し、その目標達成をめざし、最後まであきらめず取り組む。 ・スポチャレいしかわのシャトルボールを通して、握力や瞬発力をつける。また、自分やグループ（全体）の目標を設定し、記録を更新することで体力向上を図る。 ・生活習慣とメディアのチェック習慣を学期に1回設け、児童の自覚化を促すことで実態の改善を図る。	・運動会や持久走大会で、自分の目標を設定し、その目標達成を目指し、最後まであきらめず取り組む。 ・スポチャレいしかわについては、取り組み初めに委員会の児童による動画を見せたことで、取り組み意欲につながった。取り組みながら、他校の様子を知り、より意欲に燃えているクラスも見られる。2学期は、取り組み状況を掲示し、強化週間も設けたいと考えている。 ・1学期に行った「生活チェック表」では、97%の回収率ではあったが、家庭での様子を見ることができた。特に、就寝時間の極端に遅い児童については、担任による個別指導を実施していくことを考えてくる。	・運動会では、感染症対策や熱中症対策をしながら、全校で取りくめたことは良かった。また、持久走大会は雨天中止になったが、ブロック毎の記録会をし、個々の目標達成のために取り組むことができた。 ・スポチャレいしかわでは、動画を見せ、回数などの掲示をすることで意欲に繋がった。残りわずかだが、強化週間を設けるなど、最後まで呼びかけを行っていく。コロナ禍の中や他の行事・授業内容もあり、取り組みに難しさもあったが、年間を通しての工夫を凝らしながら呼びかけることが大切だった。 ・生活習慣やメディアについては、学校保健委員会での好本先生の講話をオンデマンド配信や生活チェック表などもあり、保護者・児童アンケートから改善が少しみられた。また、メディアの時間や就寝時間の自覚化を促すきっかけにもなったが、保護者への理解・意識（児童も含め）に対してまだまだ課題が見られる。3学期の生活チェック表では、事前指導を行って実施する。
情報教育	＜ICT機器を活用して、児童が主体的に学ぼうとする姿勢を育む＞	・担任は、タブレットを活用できる場面を捉え、積極的に児童に使用させており、児童も意欲的に活動できていた。 ・活用場面がかなり限られているので、実践記録を積み重ね、共有することによって、活用する場面を広げていきたい。 ・研究部と協力し、タブレットを使用した提案授業を実践していく。 ・保管場所や充電のタイミングなど、使用環境・管理方法を提案し、日常の文房具として使えるようにしていく。 ・プログラミング的思考を養う授業の具体案を担任と情報担当で協議し、実践を行う。	・児童についてログイン・シャットダウンなど基本的な操作は身につく、タブレットを日常の文房具として活用できるようになってきている。担任の先生方も試行錯誤しながら、様々な授業場面で活用しており、児童の意欲を引き出す助けとなっている。 ・タブレットを使用した提案授業については、3学期に4年生の算数で行う予定である。 ・充電のタイミングや普段の保管場所などが学年によって違い、扱いもやルールになってきている。統一できる部分は統一し、学年が変わっても同じルールで運用できるように整備する。 ・プログラミング的思考を養う授業として、3年生は簡単なコードでプログラミングを体験、4年生はサイエンスヒルズでのプログラミング体験を行った。5年生は算数、6年生は理科で3学期に授業を行う予定。
	・場面にに応じて、タブレットを使用する機会を作る。 ・ICT機器を利用し、自分の意見や考えを発表する機会を授業の中で設ける。 ・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。	・担任は、タブレットを活用できる場面を捉え、積極的に児童に使用させており、児童も意欲的に活動できていた。 ・活用場面がかなり限られているので、実践記録を積み重ね、共有することによって、活用する場面を広げていきたい。 ・研究部と協力し、タブレットを使用した提案授業を実践していく。 ・保管場所や充電のタイミングなど、使用環境・管理方法を提案し、日常の文房具として使えるようにしていく。 ・プログラミング的思考を養う授業の具体案を担任と情報担当で協議し、実践を行う。	・児童についてログイン・シャットダウンなど基本的な操作は身につく、タブレットを日常の文房具として活用できるようになってきている。担任の先生方も試行錯誤しながら、様々な授業場面で活用しており、児童の意欲を引き出す助けとなっている。 ・タブレットを使用した提案授業については、3学期に4年生の算数で行う予定である。 ・充電のタイミングや普段の保管場所などが学年によって違い、扱いもやルールになってきている。統一できる部分は統一し、学年が変わっても同じルールで運用できるように整備する。 ・プログラミング的思考を養う授業として、3年生は簡単なコードでプログラミングを体験、4年生はサイエンスヒルズでのプログラミング体験を行った。5年生は算数、6年生は理科で3学期に授業を行う予定。
家庭・地域との連携	（家庭・地域の教育力を活用する）	・総合的な学習の時間を中心に、地域人材を活用し、地域の特色を生かした体験活動や見学を行うことができた。地域のよさを知ったり、地域の方たちの工夫や、思い、温かさを感じたりする機会となった。今後も計画的効果的に地域人材を活用し、地域のよさを知る学習をすすめていく。 ・「大切なわたし大切なあなた」をテーマにすすめてきた。今後も引き続き全校での取り組みを企画実践し、家庭や地域に発信していきたい。	・今年度の学習を生かし、総合的な学習の時間を中心に、児童につけたい力を明確にして、他の教科との関連を意識しながら、地域の特色を生かした学習をすすめていけるとよい。 ・ICTを活用したオンライン授業を取り入れていく。 ・家庭、地域への発信はやや弱かった。地域や保護者に発信することで、協力を得るなど、双方向の取り組みを考えていく。
	・総合的な学習の時間を中心に地域人材を活用し、地域の特色を生かした体験活動を通してふるさとを愛する心を育てる。また、学校全体でSDGsを意識した取り組みを実践し、家庭・地域に発信していく。	・総合的な学習の時間を中心に、地域人材を活用し、地域の特色を生かした体験活動や見学を行うことができた。地域のよさを知ったり、地域の方たちの工夫や、思い、温かさを感じたりする機会となった。今後も計画的効果的に地域人材を活用し、地域のよさを知る学習をすすめていく。 ・「大切なわたし大切なあなた」をテーマにすすめてきた。今後も引き続き全校での取り組みを企画実践し、家庭や地域に発信していきたい。	・今年度の学習を生かし、総合的な学習の時間を中心に、児童につけたい力を明確にして、他の教科との関連を意識しながら、地域の特色を生かした学習をすすめていけるとよい。 ・ICTを活用したオンライン授業を取り入れていく。 ・家庭、地域への発信はやや弱かった。地域や保護者に発信することで、協力を得るなど、双方向の取り組みを考えていく。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の取組は大変大事である。読書離れが心配されるが、読み聞かせや紙芝居等で読書の楽しさを、ぜひ味わわせてほしい。質のいい読書も大切だが、とにかく読むという「数」も大切なのではないかな。 ・子どもにとって、「この先生と勉強したら楽しい」「この先生には相談できる」といった「信頼できる」「尊敬できる」教師がいるとよい。 ・自己肯定感の低さは、日本人の国民性とも関係している。コロナ禍で心の余裕がない家庭もあるのではないかな。家庭と学校で育てていけるとよい。 ・勤務時間の削減に取り組んでほしい。 ・優しい心が優しい言葉かけにつながる。根本は心を育てることである。
---------	--